★切妻屋根の妻屋根壁(勾配部位)や入母屋妻壁下地間柱の上部に頭つなぎ材を拾っておくこと.(寸法は間柱と同じ位とする)。 間柱上部の取付けで垂木や野地に止めないこと。

● 捨 枠 (すてわく)

仕上げ化粧材(開口枠•見切材).(仕上げ線状部位材)やサッシ枠等を取付けに際し.特に下地材(捨枠)とする場合は捨枠として拾っておくこと。 大きさ(寸法)に付いては各々か所に応してきめる。

● 外部 下地板

1階屋根葺材壁当り部(殴斗か所·泥障か所).分の下地板で.300～450mm(1.0～1.5尺)位の成(幅)を拾っておくこと。

◆ 6. そ の 他

● 構造材に付随する材料.

古来から.継手•仕口の引張りや.二つの材の緊結に.(込栓)·(埋栓)·(鼻栓)·(車知栓)·等の栓類や.くさび類等を用いるが.これらは用途によって大きさや名称が違っている。 栓類には堅木を使い.くさび類には使用材種か堅木等を使い.栓を用いる場合は.相手を引きつけるように.栓の道や栓の穴に"よびしろ"をつけて.引き勝手の工作をしなければならない。

近来.各種補強金物(締付け·緊結).ができて.従来の栓類に代わって用いられるようになっており.いちじるしい効果をあげている。 これらの補強用金物は.使用方法さえ適正であれば.継手•仕口を簡易化することができ.その効果は倍加される。

● 建方用 仮筋違·その他。

建方用仮筋違に付いて.必ず拾い出しておくこと。 数量としては本筋違の数量の6割以上程度の数量(本数)とし長さはなるべく長い物(一般的に4m以上)とする。屋根葺き後に軸組垂直(立水)を調整して本筋違取付け金物補強完了後に仮筋違を撤去すること。

日本古来の真壁構造(木舞掻•土壁塗).の仮筋違は間伐材(小径丸大)を使用することが多い。 屋根葺き後に軸組垂直(立水)を調整して再度仮筋違の止め直しを行なう。構造差物等の造作材取付け·力貫壁貫楔締め•木舞掻荒壁塗り裏戻し後.柱•貫•楔等の固定用の本散り施工後に.造作中に支障する部分から順次撤去していく。

仮筋違の数量(本数)は柱本数の3割強程度の数量(本数)を拾い出しておくこと。

★再確認事項に付いて.～ 建方•屋根葺等が完了し.造作工事着手前に必ず栓類の打込み忘れがないか締め付けが充分か.使用金物の釘止めやボルト·ナット等の緩み等の固定締め付けを再度行なうことを忘れずに。 特にエアーハンマーによる釘止め.か所の再点検を行うこと。